

# 第三者評価結果

## <児童養護施設>

施設名：南山寮

令和2年度

福祉サービス第三者評価機関  
株式会社 スニックス

## 第三者評価結果入力シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

①第三者評価機関名

株式会社スニックス
-----------

②評価調査者研修番号

S18051
SK18131
30地福第1854-25号

③施設名等

名称	南山寮
施設長氏名	山田 勝己
定員	56名
所在地(都道府県)	愛知県
所在地(市町村以下)	名古屋市昭和区南山町5番地
T E L	(052)831-3750
U R L	http://www.nanzan-v.com
<b>【施設の概要】</b>	
開設年月日	1886/10/6
経営法人・設置主体(法人名等)	社会福祉法人 愛知育児院
職員数 常勤職員	35名
職員数 非常勤職員	14名
有資格職員の名称(ア)	家庭支援専門相談員
上記有資格職員の人数	1名
有資格職員の名称(イ)	自立支援相談員
上記有資格職員の人数	1名
有資格職員の名称(ウ)	個別対応職員
上記有資格職員の人数	1名
有資格職員の名称(エ)	心理士
上記有資格職員の人数	3名
有資格職員の名称(オ)	保育士
上記有資格職員の人数	15名
有資格職員の名称(カ)	栄養士・保育士
上記有資格職員の人数	4名
施設設備の概要(ア)居室数	南山寮居室:30室      みなみ居室:4室
施設設備の概要(イ)設備等	
施設設備の概要(ウ)	
施設設備の概要(エ)	

④理念・基本方針

<p><b>【理念】</b>          仏教精神を基盤として創立し、共に苦しみ、共に喜ぶ同朋相互扶助の精神の日々を信条とし、「いのちの輝き」を追求する。</p> <p><b>【基本方針】</b>          ・児童養護施設南山寮職員一同は、愛知育児院創設者の理念を継承しつつ、「人間性豊かな人間形成『いのちの輝き』を追求する」という基本指標を常に念頭に置き、子どもたちが心身ともに健やかに育つべく日々のケアに努めるとともに、社会的自立に向けて全力でサポートします。</p> <p>・職員一同、常に権利擁護の立場に立ち、社会的養護の基本理念である「子どもの最善の利益のために」を念頭に、子どもたちに「あたりまえの生活」を保障し、権利と責任の大切さを伝えます。また、積極的に地域社会と関わり、地域住民に愛され、信頼される施設になります。</p> <p>・児童相談所や子ども福祉課など関係機関との連携を強化し、アドミッションケア（入所前）からインケア（入所中）、リービングケア（自立支援）、アフターケア（退所後）までのパーマネンスープランニング（永続的養育計画）の充実に努めます。</p> <p>・地球人として、「いのち」を大切に作る心、人との絆を大切に作る心、物を大切に扱う心を育てます。</p>
---

## ⑤施設の特徴的な取組

(1) 自立支援（リービングケア）と退所後支援（アフターケア）のシステム化へ  
・リービング&アフターケア委員会を発足し、自立支援と退所後支援が有機的に繋がる仕組み作りが検討され、中学生以上の児童に対して、名古屋市の自立支援機関が主催するセミナー等への参加、施設内ではリービング&アフターケア委員、外部講師を招いてのセミナーを企画するなど、児童の自立に向けた取り組みがみられる。また、自立支援年間計画や退所支援計画書を策定するなど、自立支援・退所後支援のより一層の充実に向けている。

(2) 子どもの権利擁護に向けた取り組み  
・第三者自己評価や人権擁護のためのチェックリストの活用、さらには年間を通した小グループ（年齢別・性別）ごとの性教育実践に力を入れるとともに、南山寮の「子どもの権利擁護委員会」が考案した「ほっこりカード」の有効活用に努め職員の意識改革の取り組みに力を注いでいる。

(3) 児童の意向や課題を明確にした自立支援計画等の取り組み  
・児童の意見表明権を保障することが、権利擁護の観点からも自立支援の観点からも重要であると考え、年度初めに全児童の担当福祉司との面談の機会を作り、児童の意向を踏まえた上で担当職員と担当福祉司との面談の機会を作り、児童、保護者の意向を踏まえた上で担当職員と担当福祉司とで自立支援計画の方針をたて、年度末にその見直しを図る形式を取り入れている。

(4) 地域社会や関係機関とのネットワーク強化  
・数年前に「南山寮子ども会」が廃止となり、子どもたちの地域社会との交流が損なわれたのを機会に、昨年度、主体的な地域交流の活動を企画しようと、小学校から全面的に協力していただけることになり、「地域子どもプロジェクト」を立ち上げた。また、養護学校や障害者基幹センター等との連携により、自立支援を促進する上でのネットワークを年々強化していく体制にある。

(5) 児童の安全・安心を担保するための生活環境整備に向けて  
・建築より20年以上が経過し、児童の生活環境の安全・安心を担保すべく、老朽化した施設設備の保全に取り組んでいる。また、コロナウイルスの感染拡大に伴い、職員の情報の共有化と業務の効率化を図る目的と、子どもたちのプログラミング学習やオンライン学習に対応するためにノートパソコンを増やし、無線ラン(Wi-Fi)にするなどデジタル化環境を整備した。

(6) 南山寮の中・長期計画の見直しと施設機能の地域分散化と高機能化の追及  
・平成28年の児童福祉法改正および、厚生労働省から発出された「新しい社会的養育ビジョン」により、名古屋市は「名古屋市社会的養育推進計画」を出した。施設としては、平成26年に名古屋市に提出した家庭的養育推進15年計画を見直す必要性に迫られ、令和2年度からの南山寮の10年計画を策定したところである。今後どのような変革が児童養護施設に求められるのかを俯瞰しつつ、愛知育児院南山寮らしい未来像づくりを検討していくことになる。

## ⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2020/6/30
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2021/3/1
前回の受審時期（評価結果確定年度）	平成29年度

## ⑦総評

【総評】  
前回の第三者評価において改善を求められた点を真摯に受け止め、かなりの部分で改善や整備が確認できた点は特筆すべき点である。施設内の改修工事や組織編成、若手職員の育成など随所で改善及びレベルアップが図られており、組織的な底上げがみられた。ただし、新型コロナウイルスの感染防止対策において施設長が示す安全・安心を最優先に考えた方針と子どもたちや子ども目線で養育・支援を行っている現場スタッフの考え方の隔たりが、職員や子どもたちのストレスや不満を発生させる一因となり、そのことが自己評価自体にも顕在化していることを感じた。

### ◇特に評価の高い点

【充実した自立支援と退所後支援】  
リービングケア・アフターケア委員会を発足させ、自立支援と退所後支援が有機的に繋がるシステムの構築を、社会資源と連携を図りながら取り組んでいる。自立支援では、退所後に直面することが予測される困難を想定して「南山寮セミナー」をはじめ、様々な支援を日常的にも実施しており、また退所後の支援では、日頃からの関係を維持しつつ本人に必要な支援に取り組んでいる。

【充実した権利擁護の取り組み】  
みんなでお互いに褒め合う機会が、そのまま子どもの自己肯定感を養い、他人に対しての思いやりを育てることのできる取り組み「ほっこりカード」や、子どもたちが施設内で安全で安心して生活できているかどうかアセスメントできる「安心感・安全感尺度」等、子どもが自分らしく生活できるよう権利擁護を目的とした取り組みが充実しており、安心、安全、安定した養育環境に努めている。また、チェックリストの活用や外部講師による研修会の開催など、権利擁護に関して積極的に取り組んでいる。

【ガバナンス強化に向けた取り組み】  
法人として経営・運営の透明性に向けた取り組みが整備され、外部の専門家との契約や内部統制の充実、会計上の課題解決など適正執行、ガバナンスの強化に努めている。

【地域に根ざした施設運営】  
施設長は積極的に地域のニーズの把握に努めると共に、地域との関わりや交流を大切にしている。施設のホールを地域へ開放したり地域との合同防災訓練の実施、小学校と連携を図り「子どもプロジェクト」の立ち上げなど、地域に根ざした施設運営に努めている。今年度は新型コロナウイルスの感染防止のため、取り組み自体は縮小または中止を余儀なくされたものの、地域との関わり姿勢は大変積極的である。

### ◇改善を要する点

【職員の理解度・浸透度を確保する取り組みの実施】  
施設長の示す方向や方針をはじめマニュアルなどの理解度・浸透度には温度差が生じており、組織としての取り組みや支援への影響も皆無ではない。施設長をはじめベテラン職員らによる周知の工夫と共に、理解度を確保する取り組みを検討されたい。また、職員一人ひとりについても組織の一員としての自覚を持ち、組織力の向上が子どもへの支援の向上につながることを意識されたい。

【定期的な振り返りの機会の設定】  
現状の養育・支援の内容やマニュアル、手順書などは必要に応じて見直しが行われているが、定期的な見直しの仕組みについては十分とは言えない。改善の必要性の有無にかかわらず、よりステップアップするためにも、定期的な検証、見直しの仕組み作りを検討されたい。

【報告・連絡・相談の徹底】  
施設職員にかかわらず、社会人としての基本的スキルである「報告・連絡・相談」は必要不可欠な要素であり、子どもたちをチームで育てていくための絶対条件である。報告・連絡・相談を習慣づける組織的な取り組みと個人レベルでの意識付けを望みたい。

### ⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

平成29年度の受審から3年が経ち今回で3回目の第三者評価受審となりました。

前回の第三者評価受審で指摘された事案につき、3年かけて様々なプロジェクトを立ち上げ、特に児童の自立支援と権利擁護については力を入れて取り組んできたことについては高評価いただきました。これに慢心せず、引き続き未来ある子どもたちのために今、何ができるかを常に考え、一歩ずつ前進していく所存です。

総評でご指摘いただいたように、各種の委員会の立ち上げとユニットの小規模化が相俟って、施設職員として大切な「報告・連絡・相談」を習慣づける組織的な取り組みが弱まったり、職員個々の理解度や意識付けに差が生じたりしているというデメリットも生じています。人事考課の仕組み作りや職員にとって有機的な研修計画の立案の部分については、まだまだ取り組みができていない、努力が足りない箇所であり、前回の第三者評価受診からも改善ができていない現実があります。また、施設長から職員に対して、施設長の示す方向や方針をはじめマニュアルなどの理解度・浸透度には温度差が生じていることは指摘の通りであり、施設長をはじめベテラン職員らによる周知の工夫と理解度の確認が目下の課題だと認識しています。今回の評価結果を踏まえ、愛知育児院の創設の理念に立ち戻り、南山寮の強みは何かを今一度考える必要性があります。児童福祉施設として社会資源（ソーシャルキャピタル）を活用しつつ、南山寮そのものが児童福祉を必要としている利用者にとっての社会資源たりうることを目指すことが理想です。地域社会の役に立つ施設であるためには、施設がどのような機能を持ち、どんな形でアウトリーチ型のアプローチを果たしていくべきかを模索し、南山寮というチームとして日々研鑽を重ね続けることが、今後の大きな課題です。

### ⑨第三者評価結果（別紙）

## 第三者評価結果（児童養護施設）

### 共通評価基準（45項目） I 養育・支援の基本方針と組織

#### 1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	第三者 評価結果
① 1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	b
<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等）に記載されている。	○
<input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	○
<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	○
<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	○
<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。	○
<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	○
<b>【コメント】</b> 仏教精神を基盤とし「いのちの輝き」を追求する」という理念が、リニューアルした南山寮のパンフレットにも明記されており「人間性豊かな人間形成」を基本に据え、職員へ周知されている。また、法人のホームページや定期的に発行している広報誌にも、指標として理念が記載されるなど、外部に対してもわかりやすい形で周知されている。施設の子どもに対しては理事長が説明されており、保護者に対してもパンフレットや広報誌等の掲示で周知されているが、施設としてはさらなる対応の必要性を感じており、今後の取り組みに期待する。	

#### 2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	第三者 評価結果
① 2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	b
<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	○
<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	○
<input type="checkbox"/> 子ども数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設（法人）が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	○
<input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	○
<b>【コメント】</b> 施設長は関係団体の会議や市、児童相談所などから国や市の児童福祉の動向、政策などを情報収集し職員会議等で周知に努めている。施設のハード面の整備や小規模化など国の示す養育ビジョンをはじめ、経営的な課題の把握などを職員へ示しているものの、職員の理解度については肯定的とは言えず疑問が残る点もみられる。施設長の周知浸透へむけた説明等の工夫と共に、職員は組織の一員として理解に努める自覚を望みたい。	
② 3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	b
<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	○
<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員（理事・監事等）間での共有がなされている。	○
<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	○
<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	○
<b>【コメント】</b> 事業計画書には、地域のニーズに応じた小規模化・分散化・定員減などのビジョンや児童の安全・安心及び老朽化に対応すべき施設整備、関係機関とのネットワーク強化、養育の質の向上などの課題が明記され、会議等で説明されるなど職員へ示されている。ただし、職員の理解度には温度差も感じられ全体へ周知されているとは言い難い。また、今後の具体的な取り組みについても曖昧な点もみられるため、職員の理解へ向けた取り組みと同時に期待したい。	

### 3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	第三者 評価結果
<p>① 4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p></p> <p></p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>南山寮の10年計画という形で中期(令和2年～6年)・長期(令和7年～11年)の計画が策定されており、計画を達成するための課題等も明記されている。ただし、ゴールの具体性に欠ける項目もみられ進捗状況の評価が難しいため、年度ごとの達成目標の設定や収支等も明確にされるよう検討されたい。併せて、職員は自施設の計画に対する理解促進に努められたい。</p>	
<p>② 5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p></p> <p>○</p> <p></p>
<p>【コメント】</p> <p>事業計画は、南山寮の10年計画を反映させた内容となっているが、表現等が曖昧な点も見られ具体性にはやや欠ける。年度ごとの「指導の手引き」も策定されており非常に具体的に内容となっているが、事業計画書に反映されたものとはなっていない点もみられる。今後は、計画内容の検討に期待したい。</p>	
<p>(2) 事業計画が適切に策定されている。</p> <p>① 6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)がされており、理解を促すための取組を行っている。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p></p> <p></p>
<p>【コメント】</p> <p>事業計画の策定までに至る仕組みが定まっており、各部署からの意見が各種会議を通じて策定するボトムアップ方式がとられているため、全体へ意向が反映できるようになっている。ただし、職員からの意見が出にくい(出さない)という自己評価もあり、職員がみんなで計画を策定するという意識が必要であるため、検討されたい。また、策定された計画を周知する取り組みにも期待したい。</p>	
<p>② 7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすい工夫を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p></p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>毎年4月に施設長が子どもに対して事業計画の内容等を、全体集会で具体的に説明する機会を設けている。保護者に対しては施設の機能上全体が集まる機会もなく、説明することは困難な状況であると自己評価されている。今後は、面会や行事等で保護者が来所する機会などを利用したり、掲示、お便りなどに記載することなども検討されたい。</p>	

#### 4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	第三者 評価結果
① 8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b
<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	○
<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C: Check)を行う体制が整備されている。	○
<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	○
<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	○

##### 【コメント】

子どもの権利擁護、給食、食育プロジェクト、リービング&アフターケア、IT、進路など各種委員会などに配置された全職員の意見を通じて養育・支援の質の向上に向けた検討を行っている。また、自己評価についても職員個々の評価からユニット、リーダー、全体評価へとつなげる組織的な仕組みとなっている。評価された内容は支援の質に結び付けるための取り組みとして位置付けられているが、改善についても自己評価同様、全職員が同じ意識を持てるよう組織的な体制づくりに期待したい。

② 9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	○
<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	
<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	○
<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	○

##### 【コメント】

自己評価や第三者評価をもとに明確となった課題は、各種委員会活動や日常の養育・支援に生かされている。改善策や取り組みに向けた計画も策定されているが、計画策定の仕組みの周知が十分ではないという自己評価もあるため、まずは、組織として改善していくという統一した見解に期待したい。また、施設としての弱みであると感じている「報告・連絡・相談」の徹底も望みたい。

## II 施設の運営管理

### 1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。	第三者 評価結果
① 10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	
<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	○

##### 【コメント】

施設長としての役割・業務・責任等については、指導の手引きや規程に明記しており、また有事の際の役割等も定めてある。毎月発行している広報誌には施設長のコラム欄があるため、今後は年度当初には役割や責任等を掲載されることを検討されたい。また、指導の手引きを活用しながら、職員への周知方法についてもご一考いただきたい。

② 11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	b
<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	

##### 【コメント】

児童福祉に関する法令はもちろん、職員の働き方などに関する労働基準法や施設運営に関する法令等を、関係団体の会議等での情報収集並びに法人本部からの情報や資料をもとに職員会議等で周知を図っている。ただし、一部の職員からは周知が不十分であるという声もあがっているのが現状である。周知方法の工夫に加えて、職員の理解に向けた自覚等も必要であろう。今後は、施設長の説明がどれほど伝わっているのかを確認する機会も検討されたい。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	

【コメント】

施設長として子どもの権利擁護や進路、アフターケア、ITなどの専門的委員会の活動や取り組みをはじめ、小規模化、地域分散化などについてもリーダーとしてのビジョンを示されている。ただし、自己評価や職員アンケートの結果からは指導力について肯定的な意見ばかりではないのが現状である。管理者と現場職員の意見の相違は、お互いの立場上やむを得ない点もあるものの、生じているほころびを繕う必要性も感じるためご検討いただきたい。

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	

【コメント】

施設長は現場職員からの意向把握や施設整備、経営課題の改善に向けた計画的な取り組みの推進に努めている。また、人材確保に対して非常勤職員を活用するなど柔軟な対応を図り、施設長としての役割に努めている。ただし、実際の取り組み内容や施設長としての取り組み姿勢に対して、否定的な意見も皆無ではないことから、組織内の隔たりを埋める作業を望みたい。

## 2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。

第三者  
評価結果

①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	○
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	○

【コメント】

正規職員として採用した心理士を活用し、安心感安全感尺度の取り組みを充実させたり、児童福祉に見識の高い外部の人材をスーパーバイザーとして採用したり、社会福祉士の配置など、有資格者や有能な職員採用に努めている。調理員の雇用に苦慮しているという実状もあるようなので、法人と協議しながら計画的な採用に期待したい。

②	15 総合的な人事管理が行われている。	c
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができている。	○
	<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	

【コメント】

「期待する職員像」については、施設の倫理綱領や福祉の信条10か条において明確になっており、職員への周知も図られている。施設長は各ユニットのスーパーバイザーやリーダーを、各ユニットのスーパーバイザーは現場職員をそれぞれ面談する仕組みがある。法人として人事考課制度の取り組みは実施されていないとのことだが、規程の中にある「勤務評価項目」は人事考課につながる内容でもあるため、今後有効活用されることを検討されたい。



(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	
	<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	○

【コメント】

法人として育児・介護休業規程の整備や復職制度規程を設けるなど、時代に即した仕組みが作られており、男性の育児休暇取得希望者に対応するなど柔軟な姿勢にある。今年度より、ファミリーサポート休暇や親孝行休暇などのアニバーサリー休暇も新設され、心身のリフレッシュに向けた取り組みも充実している。ただし、職員の認識不足もあり制度や周知が不十分という声も一部聞かれるため、今後は個別面談などの機会を利用され理解促進に向けた取り組みに期待したい。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	c
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	○
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標標準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	

【コメント】

職員個々に当該年度の振り返りと新年度に向けた抱負(目標)シートが用意され記入後、施設長に提出している。記入内容は、自分自身の弱みや強み、養育上の目標など、具体的な取り組み等を記入するシートとなっている。残念ながら、抱負をもとにした個別面談等のやり取りは実施されておらず、提出ままで留まっている。今後はこのシートを基に面談等を設定され、職員との意見交換の機会とされるなど有効活用を期待したい。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	

【コメント】

施設が求める職員像は明確になっており、施設内研修の企画・開催や他施設の見学研修のなどを含めた年間の研修計画が定められている。また、外部研修への参加も積極的に進められている。今後は、現状の計画及び研修内容等の評価、見直しを図る仕組みを検討され、より実効性の高い研修計画となるよう期待したい。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	b
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	○

【コメント】

今年度については新型コロナウイルスの影響もあり、計画に沿った研修参加や派遣等は難しく対面型の研修の殆どは中止としたが、従来は施設内研修、施設外研修に職員を参加させるなど、研修や学習の機会が設定されている。関係団体の研修をはじめ、外部講師による研修、他施設の見学研修、食育研修など様々な機会があり、自己希望による調整も実施されている。今後は、職員の段階的な習得に向け、研修実績の把握及びOJTの仕組みの確立に期待したい。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

【コメント】

実習に関するマニュアルが整備され、保育士や大学院からの心理士など多数の実習生を受け入れ、次世代の人材育成に向けて積極的に取り組んでいる。また、実習生を受け入れることで施設外の視点を把握し、養育・支援の質の向上に努める機会としている。今後は、指導方法の周知や実習生へ差異のない指導が行われているのか確認する機会を検討されたい。また、より分かりやすく伝える方法の学習機会なども整備されたい。

### 3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	第三者 評価結果	
①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の有存在意義や役割を明確にするように努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	○

【コメント】

法人及び施設のホームページには、理念・基本方針はもとより、法人の歩み・事業計画・苦情解決制度・地域貢献活動など様々な情報が非常にわかりやすく提供されている。また、施設の概要・特徴、さらには定期的に発行している広報誌も公開されており、法人・施設の情報を積極的に発信している。今後は個人情報に配慮した上で苦情の有無や対応などの提供も検討されたい。併せて、職員は自施設の情報公開の状況確認に努められたい。

②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	<input type="radio"/>

【コメント】

法人の経理規程が整備され、事務分掌等も明確になっている。また、法人として外部の会計士、税理士、社会福祉労務士と契約し定期的なチェック、相談体制が整備されており運営の透明性に努めている。法人の懸案事項となっていた会計業務の量と質の適正な業務執行のために、外部の専門機関へ一部委託したり、さらに、年2回の法人の内部監査の実施などがガバナンスの強化に努めている。

#### 4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。	第三者 評価結果	
①	23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの個別の状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	<input type="radio"/>
	(児童養護施設) <input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

「地域の活性化に向けて、地域とのつながりの構築」という法人の方針が明確になっており、法人主催のふれあいまつりの開催や、ホール等の地域開放、地域との合同防災訓練など積極的に地域とのかかわりに努めている。また、町内会の子ども会廃止に伴い、校区の小学校に働きかけ「地域子どもプロジェクト」を創設するなど、地域に根ざした施設作りに積極的に取り組んでいる。今年度は新型コロナウイルスの影響により、計画的な取り組みができていないものの、地域交流に対する取り組みは前向きな姿勢にある。

②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

ボランティア受け入れのリーフレットを作成し、学習指導、遊びの支援、理容、菓子作りなど個人・団体の様々なボランティアの受け入れを行っている。受け入れについては2名の担当職員を配置し、積極的に取り組んできたが、新型コロナウイルスの影響を受け現在は受け入れを中止している。今後は、受け入れ体制の充実に向けたマニュアルの完成に期待したい。

(2) 関係機関との連携が確保されている。

①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域に適当な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	

【コメント】

児童相談所や学校等との連絡会をはじめ、関係機関・団体等と情報を共有するなど連携を図り、仕入れた情報や内容については職員会議等で周知している。アフターケアについても関係機関との連携を図り、支援の継続性の確保に努めている。今後、必要な社会資源が職員に理解されているかどうかを確認する取り組みに期待したい。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	○

【コメント】

施設長は名古屋市の児童福祉施設全体の権利擁護意識向上のために積極的に活動すると共に、地域に対しては学区社会福祉協議会の委員に就任するなど様々な活動を通して、福祉ニーズの確認・把握に努めている。また、地域住民とは地域行事への積極的な参加や、町内会との合同防災訓練などを通して積極的な交流に努めている。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	○

【コメント】

法人として、被災時には地下水の給水をはじめ、福祉避難所・一時避難所の運営を行い、また地域の課題解決を目指すことを目的に、安心サポート事業などの取り組みを行っている。施設としては、子育て支援事業に施設のホールを開放したり、施設への関係機関等からの講演依頼には積極的に応じている。さらに、町内の子ども会が廃止されたことに伴い、小学校の協力を仰いで地域の子どもたち同士の交流を図るプロジェクトを立ち上げるなど地域に向けた取り組みを行っている。

### Ⅲ 適切な養育・支援の実施

#### 1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。

①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	第三者 評価結果 a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	○

【コメント】

子どもを尊重した養育支援については、倫理綱領を指導の手引きに掲載するなどして職員会議等で周知を図り、人権擁護のためのチェックリストなどを活用し状況の把握に努め、必要な措置を講じている。また、子どもの権利擁護委員会を毎月開催して、子どもたちの生活の質の向上や意見表明が活性化するように検討し、その内容を職員会議で周知徹底している。さらに、外部講師による権利擁護に関する施設内研修を実施するなど、権利擁護に対する積極的な取り組みが行われている。

②	29 子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守るよう設備等の工夫を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

施設の倫理綱領にはプライバシー尊重と秘密保持が掲げられており、職員会議等で職員に周知している。部屋に入室する際のノックや声かけの徹底など、日常生活の中で子どもには他人の領域を尊重するように伝えている。また、子どもの要望にも応えて、プライバシーが確保された快適な環境となるように努めている。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

施設のパンフレットは、写真や図・イラストなどを多く用いて、漢字にはルビを振るなどの配慮がされている。また、倫理綱領を「南山寮の大人たちが大切にしていること」という表題にし、文章全体は子どもにわかりやすい表現にして、支援内容について少しでも理解が深まるように努めている。フェイスブックでは、寮の行事や子どもたちの生活の様子を紹介したり、入所予定者には施設見学の機会をできる限り設け、施設の雰囲気及び生活の様子を見てもらうなど、施設での生活が安心できる環境であることを伝えている。

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

入所時の説明事項は整備されており、施設での生活や日課、約束事など丁寧な説明に努め、予防接種等に関する同意書は書面で残されている。自立支援計画は、子どもの意向を丁寧に確認して同意を得ている。今後は、意思決定が困難な子どもたちや保護者への説明時の配慮についてもルール化等を検討され、より分かりやすい説明がなされるように期待したい。

③	32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

入所児童の自立支援とアフターケアが有機的に繋がる仕組み作りが構築されている。自立支援においては、施設内での自立支援研修「南山寮セミナー」や食の視点からの「食育プロジェクト」、一人暮らし体験等に取り組んでいる。アフターケアについては、自立支援担当職員が中心となって行い、その支援内容は職員会議等で共有されている。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。		第三者 評価結果
①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	○

【コメント】

入所児童に対してアンケート調査を行い、結果をもとに「安心感・安全感尺度」という指標を用いて、その子どもが生活するユニット内での精神的健康感をチェックする取組を行っている。また、子どもとの面談やユニットでの子ども会議を定期的に行い、子どもの思いや意見の把握に努め、改善に結びつけている。今後は、可能な範囲で保護者の満足度把握のための取組についても検討されたい。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。		第三者 評価結果
①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○

【コメント】

苦情解決の体制が整備されており、寮内での掲示やホームページに掲載するなどして周知に努めており、法人の第三者委員会は年2回開催している。また、苦情に関して検討を要する事項については、職員会議等で検討して支援の質の向上に努めている。今後は、支援の質や信頼性の向上を図るために苦情解決の説明資料の配布や苦情内容の開示についても検討されたい。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 相談しやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	○

【コメント】

職員は「南山寮のすべての子どもの担当」という意識で関わっており、どの職員に対しても意見や思いを伝えてもよいことや、他のユニットのスーパーバイザーとの面談があること、第三者委員等への相談ができること、意見箱についてなど周知されている。また、子どもたちが相談しやすいスペースも整備されている。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	○

【コメント】

職員による子どもとの面談の機会が用意されており、また意見箱などを通して子どもの要望や相談事、意見などを吸い上げる仕組みが整備されている。把握した内容については、職員間で情報を共有して迅速な対応に努め支援の改善につなげており、Wi-Fi環境の整備、居室の工夫などが実現されている。今後は、実施方法の検証・見直しを定期的に行っていくことに期待したい。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。		第三者 評価結果
①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	○

【コメント】

児童間のトラブルも含めたヒヤリハット事例については、所定の用紙に記入して収集し毎月のユニット会議にて解決策を議論した後、職員会議に報告されることにより情報の共有を図っている。また、年度末に1年間の報告をまとめ、年度はじめに各ユニットで再発した際の対策を協議している。今後、さらに児童の特性を考慮しての分析、改善策や再発防止策の実効性について検討されたい。

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直ししている。	○
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	○

【コメント】

感染症の予防と対応については、マニュアル等で周知し適切な対応が図られている。新型コロナウイルス感染症に対しては、簡易の防護服、フェイスシールドなど必要な備品が揃えられており、感染者が発生した場合のシュミレーションも策定されている。また、病児に対しては感染症拡大防止のために、個室が活用できるようになっており、職員の研修・勉強会も適宜実施するなど感染症に対する備えが徹底されている。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的にしている。	b
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	○
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	○

【コメント】

本体施設及び地域小規模ともに、毎月避難訓練を実施しており、また年1回地域の町内会との共催で「防災デイ」を開催するなど、防火や防災に対する教育及び訓練の機会を設けている。備蓄品はリストを作成し整備されており、事業継続計画(BCP)については現在業者と契約して作成中である。今後は、できるだけ早い時期の完成を目指し、その内容を職員間で共有して必要な対策や訓練を実施するなどの取り組みに期待したい。

## 2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。		第三者 評価結果
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方を講じている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	○

【コメント】

子どもの権利擁護やプライバシー保護に関することなども含めて、標準的な実施方法が文書化されており、職員会議や新任研修、OJTなどの機会を通して職員への周知徹底を図っている。今後は、業務手順も含めて支援の均一性が損なわれているところについては文書化を、また職員が標準的な実施方法を十分理解しているかどうかを確認する取り組みを検討されたい。

②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	○

【コメント】

標準的な実施方法については、項目ごとに該当する委員会等で検証と見直しを毎年行っており、子どもからの意見や提案も反映させるように努めている。今後、養育・支援の質の向上を図るため、実施方法の検証・定期的な見直しについてPDCAサイクルを機能させた更なる取り組みに期待したい。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	○

【コメント】

年度はじめに児童相談所担当福祉司と面談の機会を設け、児童の意向もふまえたうえで自立支援計画の方針を立てている。また、令和元年度より臨床心理士を正職採用したことにより、心理士の意見をふまえたアセスメントを実現している。支援に困難を抱えるケースについては、心理士を交えてケースカンファレンスを行っている。今後は、アセスメントについて職員間で差異が生じないように、勉強会などを通して習熟する機会を設けることに期待したい。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	○

【コメント】

自立支援計画の評価・見直しは、日々の記録や1年間のまとめ等により子どもの生活状況及び支援の取組状況を振り返り、課題が明確になるように努め、子どもの意向をふまえて変更した上で、子どもの同意を得ている。見直した内容は職員に周知されている。今後は、自立支援計画を緊急に変更する際の仕組みの整備と見直しの頻度を検討されたい。



(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの閲覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○

【コメント】

子どもの記録については、意義や記入の留意点などが「職員のしおり」に記載されており、職員会議等で周知徹底し内容の充実に努めている。記録内容をユニット間で共有するためにネットワーク化し、全ての子どもの状況が把握できるよう整備されている。今後は、職員ごとにより記録内容などに差異が生じないよう研修機会の設定など更なる工夫に期待したい。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	○

【コメント】

個人情報に関する記録の保管・保存等は、指導の手引きに記載の通り適切に管理されており、寮外への記録持ち出し禁止の徹底など情報漏洩防止に取り組んでいる。職員には個人情報の適切な管理と行動を求めており、周知に努めている。今後は、個人情報の取り扱いについて更なる配慮を期待したい。

内容評価基準（25項目） □

A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 子どもの権利擁護	第三者 評価結果	
①	A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。	○

【コメント】

子どもの権利擁護については、自立支援と権利擁護の両輪が子どもの最善の利益につながると掲げられており、南山寮倫理綱領にも明示され、職員の理解が図られている。また、子どもの権利擁護委員会が組織されており会議内容について、毎月の職員会議で報告・周知されている。権利擁護委員会では、南山寮倫理綱領の見直しやほっこりカードの取り組みなどの権利擁護について積極的な活動が行われている。

(2) 権利について理解を促す取組

①	A2 子どもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 権利についての理解を深めるよう、年齢に配慮した説明を工夫し、日常生活を通して支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢や状態に応じて、権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。	
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないこと、また、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 年下の子どもや障がいのある子どもなど、弱い立場にある子どもに対して、思いやりの心をもって接するように支援している。	<input type="radio"/>

【コメント】

権利擁護に関しては「子どもの権利条約って何だろう」というように子どもにわかりやすく掲示されている。年下の子どもや障害のある子どもに思いやりの気持ちを持って接することが出来るように、障害特性などを高齢の児童に知らせ思いやりの心を育てるよう支援している。また、暴力は絶対にいけないということを日常のかかわりの中できちんと伝え支援している。権利擁護についての学習会は、新型コロナウイルス感染症対策のため全体での職員研修は難しい状況下ではあるが、研修の充実や定期的な学習機会を持たれることを期待したい。

(3) 生き立ちを振り返る取組

①	A3 子どもの発達状況に応じ、職員と一緒に生き立ちを振り返る取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達状況等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。	
	<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返り、子どもの生き立ちの整理に繋がっている。	<input type="radio"/>

【コメント】

施設で外部講師によるライフストーリーワーク研修を実施し、知識を深めると共に、施設の心理士による学習会も行い職員の更なる意識の向上を図っている。子どもへの事実告知については、ある程度の年齢や発達段階に達した時や、子どもが自分から知りたいと訴えた機会をとらえて、児童相談所と連携し伝えるようにしている。成長や生き立ちを振り返る手段としてのアルバムは、ユニット職員が整理しコメントを添えているが、子どもの写真を選び出したり、コメントを添える取り組みが滞りなくできるよう作業時間の確保を検討されたい。

(4) 被措置児童等虐待の防止等

①	A4 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 体罰や不適切なかかわり(暴力、人格的辱め、心理的虐待など)があった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や体罰等の内容・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがつけられている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、会議等で具体的な例を示すなどして職員に徹底し、行われていないことを確認している。また、不適切なかかわりを発見した場合は、記録し、必ず施設長に報告することが明文化されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けており、不適切なかかわりの具体的な例を示して、子どもに周知し、子ども自らが訴えることができるようにしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができており、被措置児童等虐待の届出・通告があった場合には、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明している。また、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

被措置児童の届出通告制度については、児童が分かりやすいように説明を付けて掲示している。子どもが不適切な行為と感ずる事案が生じた際には、子どもは自分の思いを書き意見箱に投函することができるようになっている。投函された内容や事案については、意見内容の聞き取りを行うなど適切に対応している。また、実習生に対して「職員の児童対応に関するアンケート調査」を行い、結果を基に言葉、態度などの不適切な関わりも含め早期発見と防止に取り組んでいる。

(5) 子どもの意向や主体性への配慮

①	A5 職員と子どもが共生の意識を持ち、生活全般について共に考え、快適な生活に向けて子ども自身が主体的に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 快適な生活に向けての取組を職員と子どもが共に考え、自分たちで生活をつくっているという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 余暇の過ごし方について、子ども自身が自由に選択し、一人ひとりの趣味や興味に合った活動が行えるように支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの状況に応じて、金銭の管理や計画的な使い方などを学び、金銭感覚や経済観念が身につくよう支援している。	

【コメント】

新型コロナウイルス感染症のために自粛となっている行事も多いが、高校3年生にとっては最後の行事であることを大切に考え、毎年恒例の夏祭りは、各ユニットごとに様々な取り組みを企画し行われた。定期的で開催する子ども会議は、生活上のルールや外出先など、ユニットごとに子ども主体で話し合われている。金銭の管理については南山セミナーでお金の使い方等をゲーム形式にして小学生以上に行う計画も予定されており、今後も様々な方法で子どもたちに計画的なお金の使い方を知らせていくための支援に期待したい。

(6) 支援の継続性とアフターケア

①	A6 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの生活の連続性に関して、施設全体でその重要性を理解し、入所や退所に伴う不安を理解し受け止めるとともに、子どもの不安を軽減できるように配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎えることができるよう、受け入れの準備をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもがそれまでの生活で築いてきた人間関係などを、可能な限り持続できるよう配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰や施設変更にあたり、子どもが継続して安定した生活を送ることができるよう、支援を行っている。	

【コメント】

入所に際しては、事前の準備事項や留意点、確認事項がマニュアルとして整備され、事前に児童相談所から多くの情報を収集することも含め、子どもが少しでも安心して入所できるよう配慮している。受け入れる際は、不安が軽減されるように子どもの状況に応じて、なるべく自然な形での受け入れを目指している。家庭復帰後や施設変更後も、子どもの状況の把握に努め、子どもの気持ちに寄り添った支援を行っているが、今後は更に、退所後に施設として実施できる支援のメニューを検討し、説明資料の作成も含めて検討されたい。

②	A7 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

退所後も自立支援担当職員が専任で対応しており、自立後3年はアフターケアの状況を記録として適切に残している。入所前から退所後のアフターケアまでの永続的養育計画の充実に努めている。施設内には退所後に子どもたちが実際に借りる部屋を想定した1DKの自立訓練室を整備し、自立支援に取り組んでいる。自立訓練は子どもの状態に応じて4~5日くらいを目安に期間設定を行い、実際に生活することを想定した生活訓練となっている。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果
①	A8 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。	a
	<input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起きているのかを理解しようとしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	○
【コメント】 「安心感・安全尺度アンケート」を毎年行い、心理士が分析結果から「エビデンスに基づいた養育の試み」として、うつ傾向の子どもやメンタルケアが必要な子ども、自己肯定感の低い子どもなどをデータ化し、結果を支援に活用している。結果からは、昨年に比べて大人を頼りにしてくれていることなども表れている。また、権利擁護委員会で話し合われたことは毎月の職員会議で共有され、ユニット職員だけでなく多面的支援が行われている。		
②	A9 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。	○
	<input type="checkbox"/> 生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別に触れ合う時間を確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	
【コメント】 今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で外出が制限され、欲求が満たされないことも多いが、その中でも最大限に子どもたちの希望に寄り添えるように、リモート旅行計画作り等の企画を行っている。男女で門限時間が異なっていた点についても、子どもの意見をもとに改正するなど柔軟な体制にある。夜勤・宿直体制により、夜間は各ユニットに必ず職員が配置できる体制にはないため、子どもが夜間に不安を感じない職員体制や配置なども法人を交えて検討されたい。		
③	A10 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うよう見守ったり、働きかけたりしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は必要以上の指示や制止をしていない。	
	<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> つまずきや失敗の体験を大切にし、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	○
	<input type="checkbox"/> 朝・夕の忙しい時間帯にも、職員が子どもを十分に掌握、援助できるように、職員の配置に配慮している。	
【コメント】 施設共用部分の掃除は、子どもたちの話し合いにより、強制ではなくお手伝いという形で、各ユニットがそれぞれの方法で行っている。多動傾向の子どもをはじめ、様々な入所児の特性に応じた支援の方法を工夫しながら支援の質を高めていくことに期待したい。年度により、幼稚園児が多くなった場合など、送迎時間が重なったりする時間帯の子どもの掌握については、職員配置や協力体制の確立等、今後の課題として検討されたい。		

④	A11 発達の状況に応じた学びや遊びの場を保障している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設内での養育が、年齢や発達の状況、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。	
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	○
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	○
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	
	<input type="checkbox"/> 幼稚園等に通わせている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの学びや遊びを保障するための、資源(専門機関やボランティア等)が十分に活用されている。	○

【コメント】

可能な限り子どもの状況に即した対応や支援が行われているが、ニーズに応えられないケースとしては「中高生だけでなく小学生も塾や習い事がしたい」などが挙げられた。今後は、お金の使い方の学習機会に加え、社会生活等の学習機会を増やしなが、子どもがきちんと納得できるように様々な場面を通して話し合いがなされていくことに期待したい。小学生については学習ボランティアの活用を行っているが、環境整備と共にさらなる人材活用にも期待したい。

⑤	A12 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが社会生活をいとなむ上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束を一緒に考え作っていくようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。	
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じ、身体の健康(清潔、病気、事故等)について自己管理できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくように支援している。	○

【コメント】

「使った食器は自分できちんと片付ける」等、子どもたちの生活上のルールや約束事は、子どもたちが中心となりユニットごとに話し合いが行われている。地域の子ども会が廃止されるなど地域活動への参加機会が年々減ってきている状況にあるため、施設独自で地域とのつながりを持つための活動を計画していたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で中止が余儀なくされた。現状の中でも可能となる地域社会への参加などを今後も検討され、社会性の伸長に向けた支援に期待したい。

(2) 食生活

①	A13 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	b
	<input type="checkbox"/> 楽しい雰囲気ですぐに食事できるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 食事時間が他の子どもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれたもとで、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。	○

【コメント】

施設として積極的にユニット調理に取り組み、カレーライスをはじめ各ユニットでメニューを考えて調理する日を増やし定着しつつある。栄養士と子どもたちをつなぐ掲示板もあり、子どもの質問に答えるなど子どもたちが求める情報の提供が行われている。幼児の人数も多いため、今後は年齢差や個人差に対応し、切り方、食材等の工夫や配慮を望みたい。また、給食会議も開催されているが、栄養士だけでなく直接調理に携わる厨房職員も参加し、より積極的な食育プロジェクトの実現にも期待したい。

(3) 衣生活

①	A14 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	○
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	○
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 発達状況や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	○

【コメント】

子どもの衣類については必要なものが個別に用意されており、幼児も自分専用のタンスが出し入れしやすい場所に置かれ、着替えや整理・整頓などの衣習慣が身につくような支援に努めている。衣服購入については回数を定めず、予算範囲内で自由に購入できるようになっており、今年度はインターネット通販などの利用による購入も行っている。洗濯、アイロンがけは中学生から男女共に子どもたちが行い、スキルを身につける機会となっている。こだわりのある子どもの衣服選択については事前説明を丁寧に行うなど、混乱しないよう個々の特性に応じた支援に期待したい。

(4) 住生活

①	A15 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	
	<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	○
	<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れたり壊れたりしていない。破損個所については必要な修繕を迅速に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 発達や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	○

【コメント】

施設の改修は毎年計画的に行われており、浴室は家庭用に近いものが整備され個人での入浴が可能となり、トイレも多くのユニットが子どもたちが使いやすい清潔なスペースになっている。リビングは、私物が置かれることもなく整理・整頓されている。殆どの居室が個室であるが、2人部屋となっているユニットでも、ベッドや学習機の配置を工夫し、個別的なスペースとなっている。パーソナルスペースの確保については、今後の課題として捉え、2人部屋であっても個人の居場所を確保し、個人のプライバシー配慮について検討されたい。

(5) 健康と安全

①	A16 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	

【コメント】

健康担当職員が子どもたちの予防接種履歴を確認し、未接種状況の無いように努めている。服薬が必要な子どもの薬は、各ユニットの職員が保管管理され、誰が見てもわかりやすいようになっており、誤薬や飲み忘れがないようなチェック体制が整備されている。以前から取り組まれているトイレ新聞は現在も継続されており、トイレの中でも子どもたちに分かりやすい健康情報が提供されている。法人で安全衛生委員会が立ち上げられ、今年度から施設においても取り組まれている。今後は、職員に対して定期的に医療や健康に関する学習の機会を検討されたい。

(6) 性に関する教育

①	A17 子どもの年齢・発達の状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	b
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心を持てるよう、年齢、発達の状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や、学習会などを職員や子どもに対して実施している。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもたちへの性教育については、職員が講師になって性別・年齢別の性教育実践学習会が継続して行われている。職員の学習するの機会としては、市が開催している研修を中心に外部研修に参加しているが、職員全体が性について学ぶ機会には十分とは言えない。外部講師を検討するなど職員に対する学習機会を増やし、知識向上や情報の更新を図ることで、さらに子どもたちの性についての正しい知識の習得に向けた取り組みに期待したい。

(7) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A18 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもの暴力や不適切な行動があった場合は、ヒヤリハット情報等と共にユニットで話し合いが行われている。問題が複雑な場合は、特任スーパーバイザーからの助言を受け対処したり、ユニット以外の職員がかかわるなどの仕組みが整っている。子どもの暴力行為や不適切な行動の内容を記録すると共に、問題が複雑な場合にも、専門医療機関や警察、弁護士にも助言をもらうなど、事態の改善に向けた対策がとれるような体制が整備されている。

②	A19 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方について定期的に点検を行っており、不備や十分でない点は改善を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 課題のある子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 暴力やいじめに対する対応が施設だけでは困難と判断した場合には、児童相談所や他機関等の協力を得ながら対応している。	<input type="radio"/>

【コメント】

子ども同士のトラブルが生じた場合には、聞き取りを重視し職員が間に入り双方の話を聞き、情報の整理を行うような体制にある。その際、年上の子には、小さい子に思いやりを持って接することだけでなく、年上の子どもの気持ちにも寄り添うような対応に努めている。子どもたちの暴言など些細な問題でも見過ごさず、迅速に組織的に問題に取り組み、全てのスタッフが子どもたちを見守り、いじめや差別が生じないよう組織的に取り組んでいる。

(8) 心理的ケア

①	A20 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアを必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員が必要に応じて外部の心理の専門家からスーパービジョンを受ける体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 心理療法を行うことができる有資格者を配置し、心理療法を実施するスペースを確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	○

【コメント】

昨年より、心理療法担当職員を正規職員として採用し、非常勤職員と3人体制で心理的ケアを行っている。心理的ケアは支援計画に基づいて、環境的に整備された心理室で実施されており、カウンセリング等も行われている。毎月の職員会議には心理職員も参加し意見交換が行われ、施設全体で心理的支援に取り組んでいる。現状としては、非常勤の心理士との連携体制に改善の余地があるようなので、今後は連携強化を図られる体制を整備され、さらなる心理的ケアの充実に期待したい。

(9) 学習・進学支援、進路支援等

①	A21 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるようにその時の本人の希望に沿えるような個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 障害のある子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	○

【コメント】

学習支援の一環として、宿題を怠りなく提出することは、約束を守り信頼関係を築くこととして捉え、子どもに伝えている。元教員などのボランティアの協力で、小学生に対して学習指導が行われ、中学生以上は家庭教師や学習塾を利用できる体制になっている。中学生以上が利用する学習塾は自習室もあり静かな環境で学習できているが、小学生に対しても落ち着いて取り組めるような環境の整備を検討されたい。

②	A22 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	○
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、本人、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 就学者自立生活支援事業、社会的養護自立支援事業、身元保証人確保対策事業、奨学金など、進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報提供をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 学校を中退したり、不登校となった子どもへの支援のなかで、就労(支援)しながら施設入所を継続することをもって社会経験を積めるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて支援、情報提供をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。	

【コメント】

近年、高校卒業後の進路は、専門学校や大学進学の子どもの増えてきている状況である。奨学金等についての説明は、施設の南山寮セミナーなどを利用し情報提供に努めている。措置延長については、子どもたち自身が望まないケースが多いこともあり、現状では措置延長のケースはないが、今後措置延長を希望する子どもたちが生じた場合にも対応できるように、選択肢の一つとしての道を用意されるなど、社会的資源の活用にも充実した取り組みに期待したい。



③	A23 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どものアルバイトは高校1年生の夏休み以降から認められている。施設の近隣にはアルバイト先となる職場の選択肢も多数あり、職場体験の機会には恵まれた環境にある。アルバイトに伴う門限も最大23時まで認められている。現在コロナ感染予防のためアルバイトは自粛中であるが、自動車免許・パソコン関連資格・危険物取扱資格など取得可能な資格については、積極的にとることを奨励するなど将来に向けた支援に努めている。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

①	A24 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	<input type="radio"/>

【コメント】

家庭支援専門相談員が中心となって、家族との信頼関係の構築に努めている。また、児童相談所と連携を図りながら、外出や一時帰宅、面会を取り入れ、子どもと家族の継続的な関係作りに取り組んでいる。おたよりは写真などを多く取り入れ、子どもたちの様子がよくわかるように作成されており、毎月保護者に送付している。学校や施設の行事予定や情報については随時家族に知らせ、参加を促すなど継続的な関係づくりが行われている。

(11) 親子関係の再構築支援

①	A25 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

施設から卒業し自立していく子どもは自立支援担当職員が、途中退所者は家庭支援専門相談員が担当するという役割分担がされており、それぞれ児童相談所や関係機関と連携を図りながら親子関係の再構築に向けて支援している。面会、外出、一時帰宅など積極的に行い、コロナ感染症感染拡大期には、ズーム面会を行い関係性が途切れないよう支援を行っている。親子関係再構築に向け家庭支援専門相談員を中心として、施設全体に情報共有がされ、更なるチーム支援体制作りに期待したい。